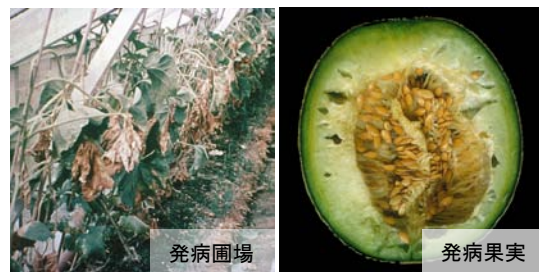


土壤中に生息するメロンえそ斑点病を媒介する菌の定量的検出法の開発

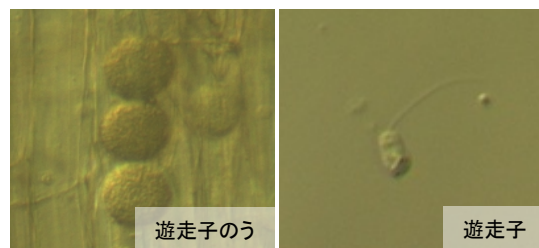
平成23～25年度 農林水産省 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業
「根圏環境制御による土壤菌媒介性ウイルス病害の発病抑制技術の開発」

- 土壤中に生息するオルピディウム菌によって媒介されるメロンえそ斑点病は、臭化メチルくん蒸による媒介菌防除で対応してきましたが、本剤は2013年から使えなくなります。



メロンえそ斑点病

- そこで、発病を事前に察知するために土壤中に生息する媒介菌(オルピディウム菌)の段階的検出法を開発しました(図1)。



媒介菌(オルピディウム菌)

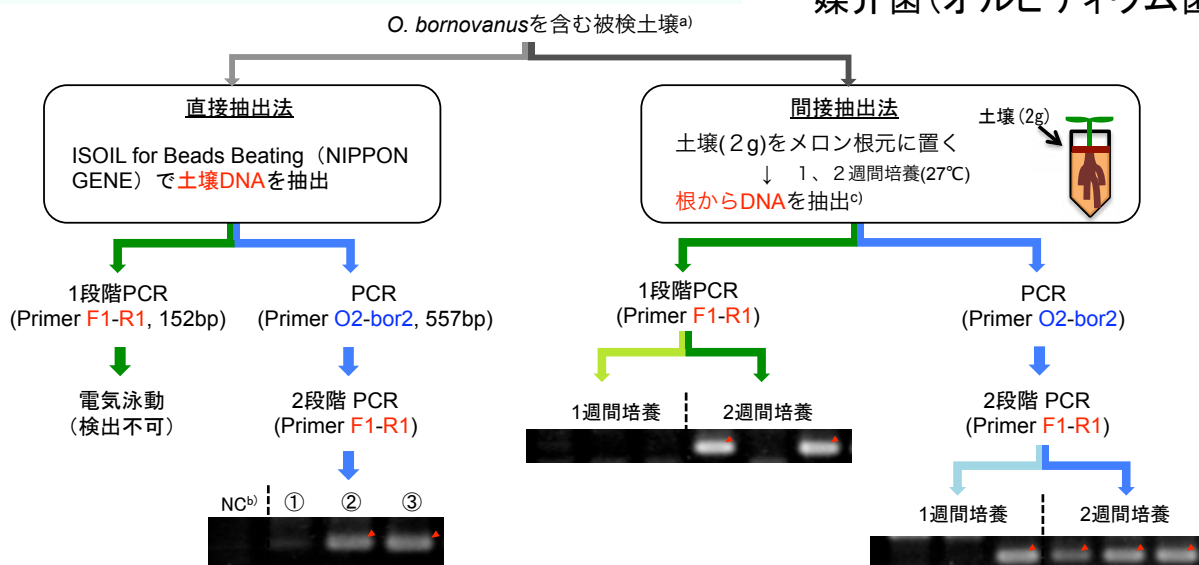


図1. 土壤検定法の手順と実際の検定結果

^{a)}千葉県暖地園 *O. bornovanus* 強汚染土壌 ^{b)}陰性コントロール ^{c)}土壌をメロン根元に置き、27°Cで1週間、または2週間培養した根のDNA

この検出法で土壤診断することで、次に栽培する作物(抵抗性メロン品種やトマト等他作物)を選定する基準を提供します。

圃場中の媒介菌濃度を診断することで
メロンの安定生産技術の開発に貢献します。

本成果は千葉県農林総合研究センター との共同研究によるものです。



農研機構

中央農業総合研究センター病害虫研究領域